

慈明院寺報六月号

いちりゅうまんばい

一粒万倍

慈明院のご本尊様である大黒天は、亡くなつた祖父・慈水が祀つていた仏様である。お寺をはじめる前に様々な仕事をしていした祖父は、商売繁盛の願いを桜の木でできた大黒様に願掛けしていた。この仏様をご本尊様として、約五十年前に慈明院は開かれたのである。



「これより小さな寺は日本にない。それなら大きくするしかなかろうが。」

父が祖父に諭された言葉である。（うまく煽てられたのか？）それから少しづつ境内を広げ、お堂を整備して慈明院の礎ができた。お寺の基礎ができた事に祖父は感謝して、大黒様へ恩返しをするとある事をはじめた。

自ら粘土をこねて、型枠で造成して大黒様を作りはじめたのだ。それが現在慈明院の本堂内陣の壁面に九百体安置されている大黒様（右写真）である。

『一粒万倍』という言葉がある。仏教の報恩經という經典から出た言葉でわざかなるものが非常に大きく成長する事の例えである。だからこそ少しでも粗末にしてはならないという教えを含んでいる。また稻の別名を一粒万倍と呼ぶ事もある。慈明院は祖父と父が、大黒様という種子をまいて約五十年。一粒万倍の例えの如く、お寺を建立する事ができた。

今年も祖父が魂を込めた大黒様に囲まれて、各家々の大黒様を迎えてお淨めの護摩を焚く「大黒天里帰り法会」の時期がやつてきた。大黒さんの姿を見て思う。手に持つ小槌は芯棒（辛抱）、担ぐ袋は堪忍袋、どちらも荷物に違いない。それでも笑う大黒さん。一粒万倍、笑う門には福来る。

去る四月一日～八日、大師堂に花御堂を据え誕生仏（お釈迦様）を安置して、甘茶をそいで供養する『花まつり』を開催しました。ご参拝頂きました皆様、ありがとうございました。



来る令和四年 六月五日（日曜日）午前十一時より

*おまつりされている大黒天のご尊像をご持参下さい。護摩供養の炎にてお淨め致します。昼食は、お接待お配り致します。参拝の難しい方は大黒様をお迎えに伺います。また郵送して頂いても結構です。どうぞ別紙参照の上ご参拝下さい。（ご参拝の時はマスク着用をお願い申し上げます。）

慈明院（〒八一一一三一 福岡市早良区大字西二三四一-二〇）
TEL（〇九二）八〇四一四五七〇 FAX（〇九二）八〇四一四六〇五
住職・吉住大慈 携帯電話〇九〇一（五二八一）一七四九四